

Fender '55 Tweed Deluxe

Leo Fender によるもっとも象徴的なアンプを唯一くまなく再現したエミュレーション

ビンテージの Fender Tweed Deluxe アンプリファイアーは、良いサウンドを得るための究極のツールのひとつです。低いボリュームでのクリーンなサウンドはナチュラルでリッチであり、ボリュームを上げていくとフルに歪んだ粘り気のあるチューブ・サチュレーションや甘く艶やかなオーバードライブ・サウンドが得られます。50 年代、60 年代にブルースやカントリーで もっとも多く使用されただけでなく、現代でも誰もがこの伝説的なアンプのダイナミックで反応の良い画期的なアンプを愛用しています。

Universal Audio は、2 年以上もの間の研究開発を行い、UAD-2 と Apollo のためにこの Fender '55 Tweed Deluxe プラグインをリリースすることに誇りを持っています。

Fender Musical Instruments より許諾を得た '55 Tweed Deluxe プラグインは、神聖化されている 5E3 Deluxe サーキットのあらゆるニュアンスの隅から隅までエミュレートし、無類のトーンマシンのニュアンスを再現しました。



Fender '55 Tweed Deluxe インターフェイス

機能

- Apollo で Unison™テクノロジーを使用して 1955 Fender tweed Deluxe アンプの本格的なエミュレーションをほとんどレイテンシーなくトラッキングに使用することができます。
- 以前にレコーディングしたトラックをお好きな UAD-2 ハードウェアでリアンプ可能。
- フェイズの問題を気にすることなく簡単に別のマイクの組み合わせや配置が得られ、完璧なスタジオでのアンプ・トーンを使用したトラッキングが可能。
- 3 種類の異なるスピーカーを選択することができ、大きなレンジのカラーやテクスチャーを得ることができます。

科学を通してマジックを見つける

Universal Audio は、ゴールデン・ユニットでエミュレートを行なうために 2 台の状態の良い 1955 tweed Deluxe アンプを選びました。Tweed Deluxe のボリュームやトーン・コントロールによって得られるダイナミックな表現力、レコードと同じサウンドが簡単に得られるように、スピーカー・コーン、放熱、フィルターキャップ、トランスなど、一つ一つの部品のすべてをキャプチャーするために 2 年間にも渡る R&D プロジェクトを開始しました。

スピーカーを選択する上の定義 — 3 ジャンル

スピーカーは Tweed Deluxe のキャラクターでもっとも重要な要素です。'55 Tweed Deluxe プラグインは、プロのプレーヤーに 40 年以上にもわたって使用されてきた“ホットロッド”モッドを提供します。

絶妙な位置に置かれたマイク・セットアップ

'55 Tweed Deluxe プラグインは、著名なマイク・コレクションを使用したマルチマイク・セッティングによるトーンを位相の問題を気にせず使用することができます。個別のパン、レベル、ハイパス・フィルターを提供し、直感的に使えるマイク・ミキサーでサウンドメイキングを行うことができます。そして、さらにトーンの微調整を行なうためにオフアクシスの位置にマイクを置くことも可能です。

プリセットをダイヤル

慎重に作成された幅広いプリセットが提供されています。プリセットは、アンプ、スピーカー、マイク・セッティングの最適な組み合わせをギター・サウンドの専門家によって設計されました。

プリセットを試聴してギタリストやエンジニアの作成したサウンドをヒントにすることも可能です。もちろん実験的なセッティングを行なうこともできますが、悪い音を作ることは不可能です。

Apollo で使用する Unison™テクノロジー

UA の画期的な Unison テクノロジーを活かし、Fender '55 Tweed Deluxe プラグインは、歴史上もっともレコーディングに使用されたギター・アンプのインピーダンス、ゲインステージやサーキットの挙動を忠実に再現します。そしてオリジナルのアンプのようにアンプの 4 系統の入力のゲインレベルやインピーダンスを変更し、異なるゲインステージが得られます。また、インプットをジャンプしてチャンネルをブレンドするために“Y”ケーブルを使用することも可能です。

技術について

注: このセクションでは、プラグインのコンセプトについて説明します。詳細なコントロールの説明については、この章の後半の [Fender '55 Tweed Deluxe のコントロール](#) を参照してください。

UAD Fender '55 Tweed Deluxe プラグインは、プラグイン全体をアンプ・サーキット、スピーカー、マイクの 3 つの領域に分けて構成されています。これらの項目は、最新かつ最高のモデリング技術を使用して個別にエミュレートされました。

1955 Fender Deluxe

この Fender Deluxe Amp は、長い Deluxe モデルの歴史の中でも 1955 年に製造されたものです。2 チャンネルで構成され、各チャンネルのボリューム、両チャンネルで共有されるトーンを備えています。アンプは独特なツイード生地で覆われたオープンバック・キャビネットに 12 インチのスピーカーを搭載し、15 ワット出力を備えています。

5E3 サーキット

アンプのエレクトロニクス部分は、Fender から “5E3” 回路として指定されています。回路自体は、多くのアンプよりもシンプルであり、5 本のチューブを使用しています。12AX7 と 12AY7 のプリアンプ・チューブ、2 本の 6V6GT パワー管、そして 1 本の 5Y3GT 整流管です。このサーキットにトランジスターは使用していません。

5E3 は、ウォームでタッチに敏感であり、低いボリュームでは、素晴らしいクリーンが得られ、上げていくとファジーなディストーション・サウンドが得られます。プリアンプとパワーセクションは、ともにホットになり、すぐに音楽的に満足いく結果が得られるでしょう。

そのシンプルさにも関わらず汎用性は高く、ギタリストだけでなく、様々なジャンルのプレーヤーに人気となりました。シンプルなコントロール、プリアンプ管、パワー管、スピーカーの間の複雑な相互作用は、優れたトーンかつ幅広いレンジを提供しています。

このアンプのインタラクティブでダイナミックなサウンドのレスポンスは伝説と言えます。アンプの各部品間の極端な相互作用をモデリングすることが難しいことは知られています。

しかし、アンプの本格的なサウンドとライブなフィーリングが Fender '55 Tweed Deluxe プラグインでは、見事な精度で再現されています。あなたは簡単に素晴らしいレコーディング・ギターサウンドを作るために必要なすべてのツールを手に入れることができます。

スピーカー

プラグインでは、3 種類のクラシックなスピーカーが提供されています。オリジナル・ストックのスピーカーに加えて、2 種類の代替スピーカーは、慎重に 5E3 サーキットを補完し、様々な音楽ジャンルに合うよう選択されました。

各スピーカーは、クラシックなアメリカン・クリーン、ブリティッシュ・ロック、またそれらの間にあるすべての幅広いサウンドを提供する独特の周波数特性とダイナミック・レンジを持っています。

マイクロフォン

5 種類のハイクオリティ・マイクは、ビンテージからモダンな時代のアンプサウンドをキャプチャーするために使用可能です。2 種類のマイクが同時に使用可能で、それぞれレベル、ハイパスフィルター、パンを設定可能です。

2 種類のマイクはミックスすることができ、使用しているマイクは互いにスピーカーを補完するために選択しています。例えば、パンチのあるミッドをミックスからカットするためにマイクを選択し、コシと深みを与えるために多くのローエンドを持っている 2 台目のマイクをブレンドすることが可能です。

マイク・プレースメント

スピーカーの種類ごとに完璧なマイクの配置の組み合わせを見つけるには、いかに経験豊富なエンジニアであっても時間を要します。スピーカー・コーンに対するマイクの位置でも微妙な違いがあり、アンプでのレコーディングに重要な影響を与えます。

Fender '55 Tweed Deluxe プラグインは、この仕事をエンジニアの代わりに行ってくれます。各マイクの配置は、各マイクに合わせて最適な“スイートスポット”に配置されています。

オプションとして、代替音色を提供するためにオフアキシスの位置にマイクを使用することも可能です。通常的位置と同様にオフアキシス位置で最適な音が得られるように配置され、それはスピーカーごとに独自の配置を持っています。

マイク・ミキシング

物理的な領域(現実の世界)では、ひとつのソースに複数のマイクを使用すると、位相のズレを引き起こし、コムフィルターのような音になる場合があります。Fender '55 Tweed Deluxe では、すべてのフェイズ・アライメントに関する問題は専門家によって解消されており、音楽に集中することができます。2本のマイクを同時に使用することによって大きなサウンドを得ることが簡単に行えます。



Unison の相互作用

Fender '55 Tweed Deluxe は、Universal Audio のオーディオ・インターフェイスでのみ使用可能な Unison テクノロジーを最大限に活用しています。

Unison インピーダンスの相互作用

プラグインを Apollo の Console アプリケーション内の専用の Unison インサートスロットに起動すると、Apollo の Hi-Z インプット・ジャックの物理的なインピーダンスは、オリジナルアンプのインプット・ジャックのインピーダンスのキャラクターを遺伝しているかのように変化します。

Apollo のリアルタイム UAD プロセッシングを使用してアンプをプレイする場合、ギター・ピックアップやアンプのインプット間の物理的なインピーダンスや電気的な相互作用は、正確なギターサウンド、ダイナミックなタッチレスポンスやフィーリングを再現するためにとても重要な鍵となります。

Unison インピーダンスの相互作用がアンプの 4 系統すべてのインプットで提供され、ギター・シグナルがバーチャルな Y 字ケーブルで同時に MIC と INST チャンネルに分割してパッチングされる場合でも提供されます。

注: Hi-Z インプット・インピーダンスの相互作用は、第一世代(シルバー)の Apollo DUO/QUAD/FireWire ラックマウント・モデルには、使用できません。

Unison ゲイン・コントロール

すべての Unison プラグインと同様にメインのゲインパラメーター(この場合は、INST の VOL ノブ)を簡単に Apollo のハードウェア・パネルの上の物理的なプリアンプのゲイン・ノブを使用した双方向コントロールで調整が可能です。

ゲインステージ・モードに入ることで、プラグインのすべてのプライマリー・ゲイン (INST VOL、MIC VOL、MASTER LEVEL) を Apollo のハードウェア・パネル上のゲイン・ノブでコントロールすることができます。



ギターアンプ・プラグインのワークフロー

UAD プラグインは、Apollo シリーズのオーディオ・インターフェイス、または UAD-2 DSP アクセラレーターで 사용할 수 있습니다。それぞれの製品で Fender '55 Tweed Deluxe を使用した時の典型的なインプット(モニタリング/レコーディング)とアウトプット(プレーバック/ミキシング)のワークフローを以下に紹介します。

Apollo でのワークフロー

Apollo でのリアルタイム UAD プロセッシングは、識別できないくらいの低レイテンシーで UAD プラグインを使用したモニタリング/レコーディングを可能にします。この機能を使用している間は、プラグインのアンプ・プロセッシングの有無に関わらずレコーディングを行なう事ができ、モニターのみにプロセッシングを適用することができます。

重要: Apollo でインプット・モニタリングを使用する場合、ソフトウェアのモニターはシグナルが二重に聞こえることを防ぐために DAW 側でミュートする必要があります。手順については、DAW のマニュアルを参照してください。

注: 関連する詳細な情報に関しては、Apollo ソフトウェア・マニュアルを参照してください。

Apollo: ライブ・インプットプロセッシング

もっとも本物に近く、ダイナミックなタッチ・レスポンスやオリジナル・アンプのフィーリングを得るには:

1. Apollo のフロントパネルにある Hi-Z インストゥルメント・インプットにギター(または他のパッシブ楽器)を接続してください。インプットは、自動的に Hi-Z ジャックを使用するように切り替わります。
2. Apollo の Console アプリケーション内にある Hi-Z インプット専用の Unison インサート・スロットでアンプ・プラグインを立ち上げてください。Hi-Z インプットは、Unison インピーダンスと双方向コントロールが可能なアンプ・プラグインにルーティングされます。
3. Hi-Z から DAW へ入るシグナルは、完璧なアンプサウンドが得られます(Unison インサートのプロセッシングは常にレコーディングされます)。

ヒント: Apollo のプリアンプ・ゲインノブでアンプの INST VOL コントロールを調節したり、ゲインステージ・モードによってハードウェア・ノブでその他のゲインステージを調整可能になります。

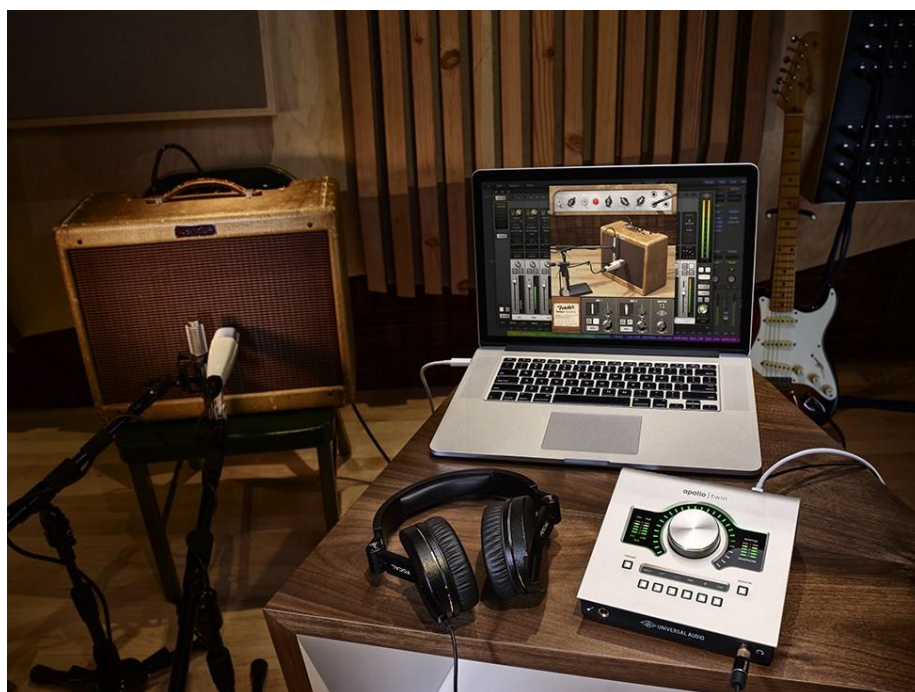
Apollo: インピーダンスの相互作用を持ったドライ・シグナルをレコーディング

Apollo の Hi-Z インプットは、アンプ・サウンドのプロセッシングを行わずに、インプット・ジャックのインピーダンスによる相互作用のみをキャプチャーしてレコーディングをすることができます。このワークフローは、Unison インピーダンスの相互作用以外はドライでレコーディングするので、後でアンプのサウンドを加えることができ、ミックス時に好みに応じて調整をすることができ、とても便利です。

アンプのプロセッシングなく、Unison Hi-Z インピーダンスの相互作用をレコーディング、またはモニタリングするには：

1. Apollo のフロントパネルにある Hi-Z インストゥルメント・インプットにギター（または他のパッシブ楽器）を接続してください。インプットは、自動的に Hi-Z ジャックを使用するように切り替わります。
2. Apollo の Console アプリケーション内にある Hi-Z インプット専用の Unison インサート・スロットでアンプ・プラグインを立ち上げてください。Hi-Z インプットは、Unison インピーダンスと双方向コントロールが可能なアンプ・プラグインにルーティングされます。
3. プラグイン・インターフェイス内のアンプ ON/OFF スイッチを OFF にします。するとアンプのパワーランプが消灯しますが、インピーダンスの相互作用は有効になったままになります。
4. DAW でトラックへのインプット・ソースとして Hi-Z インプットを設定します。DAW のトラックは、アンプ・プロセッシングを行わずにアンプのインピーダンスの相互作用のみをキャプチャーします。

ヒント： インピーダンスの相互作用と持ったままのドライシグナルをレコーディングしながらリアルタイムでアンプのプロセッシングを行ったサウンドをモニタリングするにはこれに加え、[Apollo: インピーダンスの相互作用を保ったままライブでステレオモニタリング](#)を参照してください。



Apollo: インピーダンスの相互作用を保ったままライブでステレオモニタリング

ステレオでアンプのデュアルマイク・サウンドを聴くには、プラグインがステレオ・ソースで使用される必要があります。しかし Apollo の Hi-Z インプットは、モノラルです。このワークフローでは、2 台のアンプ・プラグインを Console で使用します。: 1 つは、Unison インサートでインピーダンスの相互作用のために、そして、もう 1 つはアンプ・プロセッシングを行なうためにステレオ AUX バスに使用することでマイクのパンを調整できるようになります。

ステレオでアンプ・プロセッシングしたサウンドをモニターしながら Unison Hi-Z インピーダンスの相互作用をキャプチャーするには:

1. Console では、このワークフローのために Hi-Z インプット以外はすべてのインプットの AUX SEND をミュートしてください。
2. 前ページ、[Apollo: インピーダンスの相互作用を持ったドライビングナルをレコーディング](#)のステップ 1, 2, 3 と同じ操作を行ってください。
3. Console 内で、Hi-Z インプットをミュートしてください。これによりインプット・シグナルをモニターアウトにルーティングせず、二度鳴りを防ぎます。
4. Console で、Hi-Z インプットを AUX にルーティングし、Hi-Z チャンネルの SEND コントロールを最大にしてください。インピーダンスの相互作用を持ったドライビングナルはさらなるプロセッシングのために AUX バスにルーティングされます。
5. Console で、AUX インサートにアンプ・プラグインを立ち上げてください。(Hi-Z インプットがミュートされているので信号はまだ聴こえません)
6. ミュートしている Hi-Z インプットが AUX で聞こえるよう POST から PRE に切り替えてください。以上で、Hi-Z インプットのシグナルを Unison アンプ・プロセッシングし、ステレオでモニターすることができます。

ヒント: このセッティングを使用して DAW で完璧な Unison アンプ・プロセッシングしたシグナルをレコーディングするには、ソースとして AUX を選択し、ステレオトラックにレコーディングしてください。Unison インピーダンスの相互作用を持つドライビングナルをレコーディングするには、DAW 上で Hi-Z インプットを使用するモノラルトラックを作成してください。

UAD-2 でのワークフロー

Fender '55 Tweed Deluxe アンプ・プラグインは、互換性のある DAW 上で UAD プラグインとして使用することもできます。以下のとおり、プラグインはどの UAD-2 ハードウェアであってもソースにギターアンプのカラーやトーンを加えることができます。

UAD-2: ライブインプット・プロセッシング

DAW とともに使用する際、一般的な (Apollo 以外の) オーディオインターフェイスを経由して UAD プラグインを使用したライブ演奏をする場合のレイテンシーは、使用しているハードウェア I/O のバッファの設定によって異なります。今回紹介するシナリオでは、お使いのシステムで可能な限り、低い値に設定すると良いでしょう。

注: この技術は、DAW やオーディオインターフェイスの機能や特徴によってコントロールされます。詳細な手順については、各メーカーのマニュアルを参照してください。

DAW 内でアンプ・プラグインを介して演奏する時に、ライブ・インプットのレイテンシーを最小に抑え、最高のサウンドを得るには:

1. 使用しているシステムが、ノイズを生むことのない範囲で可能な限り小さいバッファサイズを設定してください。バッファサイズが小さければレイテンシーも低くなります。
2. DAW のチャンネル上でアンプ・プラグインをインサートしてください。可能な場合、最適な結果を得るためにインターフェイスの Hi-Z インプットに楽器を接続してください。
3. DAW のソフトウェア・インプットモニタリングをオンにしてください (または低レイテンシー・モニタリング機能も使用可能です)。これでアンプ・プラグインを通したサウンドを聴くことができます。
4. アナログ領域 (オーディオ・インターフェイスのプリアンプや他の外部プリアンプ) やデジタル領域 (DAW 内のゲイン・コントロール) でギターの信号を増幅しないでください。アンプ・プラグインのインプットはパッシブ・ギターのピックアップからの低レベルの信号を待っています。アンプがオーバーロードしたサウンドが必要な場合は、アンプ・プラグインのインターフェイスで LINE スイッチをオンにしてください。
5. ライブ・インプットをモニタリング/レコーディングした後の再生時にコンピューターの負荷を軽減するためには I/O バッファサイズを増やすことが可能です。レイテンシーは、再生時には無関係です。

ヒント: UAD-2 PCIe カードや UAD-2 Satellite (Thunderbolt、または USB モデルのみ) を使用するときのレイテンシーを減らすためには、プラグイン・インターフェイスの下部の UAD ツールバーのマイクアイコンをクリックして UAD-2 LiveTrack モードに切り替えてください。

UAD-2: プレーバック時のプロセッシング

伝統的なアンプのサウンドをすでにレコーディングしたトラックに加える(リアンプ)場合、通常はアッテネートしてアンプが当初設計されたパッシブインストゥルメント・レベルに戻すを行います。しかし、プラグイン内でこれを行う場合はとても簡単です。

レコーディング済みのトラックにアンプ・プラグインのプロセッシングを行なうには:

1. 他のプラグインと同様にお好きなソースにアンプ・プラグインをインサートしてください。
2. プラグイン・インターフェイス内では、アンプの NORMAL/LINE スイッチを LINE に設定してください。LINE では、シグナルを-14dB アッテネートし、信号が増幅されていないように動作します。

ヒント: 高いレベルのソース(ドライ)シグナルをレコーディングしないでください。0dBFSに近いホットなシグナルの場合、アンプのインプットを LINE にしていてもオーバーロードすることがあります。.



Fender '55 Tweed Deluxe のコントロール

すべてのコントロールの具体的な動作は、このセクションで説明されています。アンプの概要と動作原理については、前章の[技術について](#)を参照してください。

アンプのパネル



アンプ・パネルのコントロール類

Line/Normal

このスイッチが LINE の位置にある場合シグナルは、-14 dB のアッテネートを受けます。LINE は、高レベルのシグナルにパッドを適用します。そしてアンプが NORMAL 位置にあるときよりも歪みにくくより多くのヘッドルーム・スペースを提供します。

注: このコントロールは、オリジナルのハードウェアでは使用できません。

アンプの回路はもともとパッシブの楽器や、マイクレベルのシグナル用に設計されました。このように増幅されていないパッシブの楽器(エレキギターなど)を使用する場合、このスイッチは NORMAL の位置で使った方が良い結果が得られます。

ホットな(事前にアンプを使用してレコーディングしたトラック)シグナルにプラグインを使用する場合は、このスイッチは LINE で使用したほうが良い結果になります。LINE は、またハムバッキングやアクティブのギター・ピックアップを使用する場合にクリーンなサウンドを得る場合にも有効です。

ヒント: [マスター・レベル](#) コントロールは、LINE を使用した場合にアウトプット・レベルが低下する状態を補正するために使用することができます。

スピーカー・セレクト

このロータリー・スイッチは、使用するスピーカー・モデルを選択します。3 種類のスピーカーの選択が可能です。それぞれが明確で高度なサウンド・キャラクターを持っています。

スピーカーの説明

JP 12

工場出荷時のオリジナルに使用されていた 25-ワットの Jensen P12R スピーカーをモデリングしています。これは他のスピーカーほど多くのミッドレンジは無く、トップの輝きと分厚いボトムが特徴です。典型的な初期のカントリー & ウェスタン、ブルースやロックンロール・サウンドが得られます。

JB 120

購入後の Fender 用リプレイス・スピーカーとして 70 年代の 120-ワット JBL D-120F を用意しました。これはキビキビとした軽やかなプレゼンス、アッパーミッドレンジにピークを持つサウンドを提供します。

GB 25

ロック・プレイヤーに人気のクラシックな Celestion 25-ワット “greenback” スピーカーをモデリングしました。これはウォームで、分厚いボトム、粘りのあるミッドでダークなサウンドが得られます。歪みを与えていくと艶やかなトレブルのレスポンスを提供します。

On/Off (有効/無効)

このスイッチは、オリジナルのシグナルと、プラグイン適用後のシグナルを比較するためのバイパス・コントロールとして使用できます。

ヒント: オン/オフを切り替えるには、電源ランプをクリックしてください。

このスイッチがオンの位置(下向き)にある場合、プラグイン・プロセッシングが有効で、赤い電源ランプが点灯します。オフの位置(上向き)にある場合、プラグイン・プロセッシングは行われず、電源ランプ、マイク・ボタンは消灯します。

オフの位置に設定した場合、プラグインは UAD DSP にロードされたままになります。プラグインをアンロードし UAD DSP の負荷を下げるには、パワースイッチ(UA ロゴ)を使用してください。

Unison の相互作用

プラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z インプット専用の Unison インサートで使用される場合、Apollo の Hi-Z インプットとアンプのインプット・ジャックの選択の間で Unison の物理的なインピーダンスの相互作用はアンプがオフになっている場合でも有効のままです。

これにより Apollo の Unison によるインピーダンスの相互作用をコントロールすることができます。例えば、Unison インピーダンスの相互作用を適用したドライビングナルをレコーディングすると、ミックスダウン時にアンプのプラグインを使用した場合、完全な Unison モデリングの精度を維持したサウンドを作ることができます。

注: 具体的な使用例については、前述の[ギターアンプ・プラグインのワークフロー](#)を参照してください。

Tone(トーン)

共通の TONE コントロールは、INST、MIC の両インプットからのシグナルの全体的な音色を調整します。ノブを時計回りに回すとトレブルを上げ、ベースを下げます。反時計回りに回すとベースを増やし、トレブルを減らします。中央位置(約 6.5)でもっともニュートラルなサウンドが得られます。

トーン・サーキットは、プリアンプとパワーアンプの間に位置しています。TONE を上げると、ゲインを増やし、パワーセクションの歪みを増大させます。歌うようなリード・トーンは最大の位置で得ることができます。

TONE は、クリーンなコントロールではありません。それはパワーセクションをハードにプッシュし、両方のボリューム・コントロールと大きく相互作用し、幅広く効果的なレンジを持ちます。

INST ボリューム

INST VOL ノブは、INST インプットのシグナル量とディストーションをコントロールします。もっともクリーンなサウンドを得るには、このコントロールは 2.5 以下に設定してください。

オリジナルのハードウェアのサーキットの相互作用を維持するために、INST インプットに接続されていなくても INST VOL を調節すると MIC インプットのサウンドに微妙に影響を与えます。

INST インプットに接続が無い状態で INST VOL を大きくすると、MIC インプットのゲインを減らし、低域も減少させ、細い音になります。

Unison の相互作用

デフォルトの Apollo コントロール

プラグインが Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z 専用の Unison インサートに立ち上げられている場合、このパラメーターは、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブ(ハードウェアのコントロール)、そしてプラグインのソフトウェア・ノブのどちらでも調整可能です。Apollo がゲインステージ・モードでない場合でもこのインタラクティブな相互作用は使用可能です。

ゲインステージ・モードのコントロール

Apollo がゲインステージ・モードである場合、このパラメーターは、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブでコントロール可能です。このゲイン・ステージがで選択されると、プラグイン上のノブにオレンジ色の点が付きこのパラメーターをプラグイン・インターフェイス上、そしてハードウェア・ノブでインタラクティブに調整可能となります。



ヒント: ゲインステージ・モードに入る/出るために、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブを 3 秒間押したままにしてください。ゲインステージ・モードの場合、使用可能なゲインステージを選択するためには、Apollo のゲイン・ノブを何度か押してください。詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルの“Unison”の章を参照してください。

Mic ボリューム

MIC VOL ノブは MIC インプットのボリュームやシグナルの歪みをコントロールします。クリーンなサウンドを得るには、このコントロールは 2.5 以下に設定してください。

オリジナルのハードウェアのサーキットの相互作用を維持するために、MIC インプットに接続されていなくても MIC VOL を調節すると INST インプットのサウンドに微妙に影響を与えます。

MIC インプットに接続無く MIC VOL を大きくすると、MIC インプットのゲインを減らし、低域も減少させ、細い音になります。

Unison の相互作用

ゲインステージ・モードのコントロール

Apollo がゲインステージ・モードである場合、このパラメーターは、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブでコントロール可能な最初のゲインステージです。このゲイン・ステージがゲインステージ・モードで選択されると、プラグイン上のノブにアンバー色の点が付きこのパラメーターをプラグイン・インターフェイス上、そしてハードウェア・ノブでインタラクティブに調整可能となります。



ヒント: ゲインステージ・モードに入る/出るために、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブを 3 秒間押したままにしてください。ゲインステージ・モードの場合、使用可能なゲインステージを選択するためには、Apollo のゲイン・ノブを何度か押してください。詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルの“Unison”の章を参照してください。

インプット・セレクト

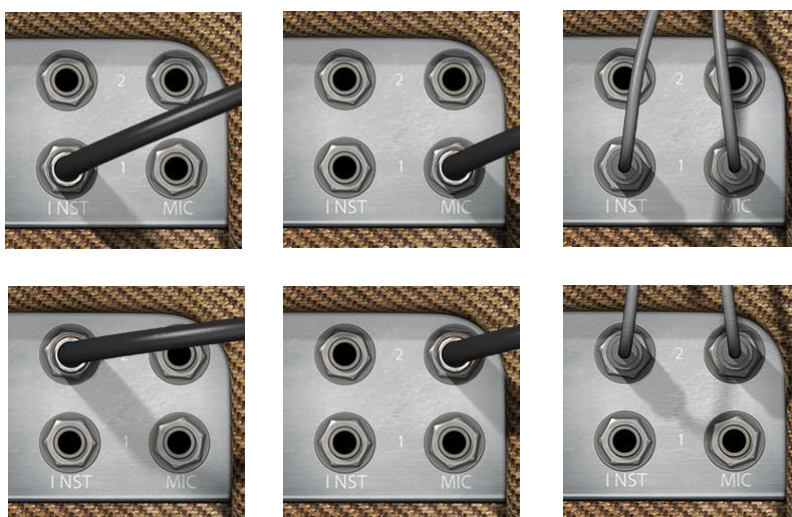
オリジナルのアンプと同様に INST と MIC に 2 チャンネルずつ、4 系統のインプット・ジャックが用意されています。INST と MIC インプットはバーチャルの Y ケーブルを使用してパッチングすることができ、Apollo の Unison テクノロジーとさらなるサウンドのオプションを提供します。

インプット・ソースにパッチを適用するには、お好きなインプット・ジャックをクリックしてください。バーチャル Y ケーブルを使用して INST と MIC インプットの両方にパッチをしたい場合、もう一度インプットをクリックしてください。

注: INST 1 + MIC 2、INST 2 + MIC 1 への Y 字ケーブルは適用できません。

INST と MIC インプットは、似て聴こえますが、同じではありません。全 6 種類のインプットの選択は、ビンテージ Y ケーブルを含み正確にモデリングされています。

注: プラグインが標準のインサートで使用する場合、Y 字ケーブルの選択はアンプのサウンドに影響を与えません。プラグインが Apollo の Unison テクノロジーで使用する時に Y ケーブルによるインピーダンスの相互作用を使用可能です。



使用できるインプット・セッティング

Unison の相互作用

プラグインを Apollo の Console アプリケーション内の Hi-Z インプット専用の Unison にインサートされると Apollo の物理的インピーダンスは、オリジナル・ハードウェアのインプット・ジャックのインピーダンスを再現するように調整されます。

Apollo のリアルタイム UAD プロセッシングを使用して演奏する場合、この物理的なインピーダンス・マッチングは、正確なサウンド、ダイナミックなタッチレスポンスに重要な鍵となります。

注: Hi-Z インプット・インピーダンスの相互作用は、第一世代(シルバー)の Apollo DUO/QUAD/FireWire ラックマウント・モデルには、使用できません。

INST インプット

2 系統のインストゥルメント・インプットジャック (INST 1 と INST 2) が用意されています。INST インプットは、MIC インプットと比較してトレブリーでベースが少ないサウンドを特徴とします。

両方の INST インプットは、主に INST VOL ノブでコントロールされます。しかしサーキットの相互依存があるので MIC VOL を調整すると INST インプットにも影響を与えます。

INPUT 2 ジャックのシグナルは 6 dB 減衰されます。INST 2 は一般的には、よりクリーンなヘッドルームを必要とするホットなシグナル (ハムバッキングやアクティブ・ピックアップ) に使用します。

MIC インプット

2 系統のインストゥルメント・インプットジャック (MIC 1 と MIC 2) が用意されています。MIC インプットは、INST インプットと比較してベースが強く、トレブルが少ないサウンドを特徴とします。

両方の MIC インプットは、主に MIC VOL ノブでコントロールされます。しかしサーキットの相互依存があるので INST VOL を調整すると MIC インプットにも影響を与えます。

MIC 2 ジャックのシグナルは 6 dB 減衰されます。MIC 2 は一般的には、よりクリーンなヘッドルームを必要とするホットなシグナルに使用します。



Y インプット

INST と MIC インプットにバーチャルの Y ケーブル・パッチによって同時に使用した際、Apollo の Unison テクノロジーを使用するとインプット・インピーダンスを半分にします。この場合、長いケーブルを使用したかのようにミッドレンジが多く、トレブルを減らし、スムーズなトップエンドが得られます。

注: Y ケーブル・インプットを標準 (比ユニゾン) で使用した場合、アンプのサウンドに影響を与えることはありません。プラグインが Apollo の Unison テクノロジーで使用した場合にのみインプット・インピーダンスの相互作用を使用可能です。

マイクロフォン・パネル

注: MIC 1 と MIC 2 のコントロールは同じです。



マイクロフォン・パネル

マイク・セレクト

5 種類のマイクが用意されています。それぞれについては以下に説明します。このような素晴らしいマイクとプロフェッショナルによる配置は、トラッキング、ミックスする時に、EQ に手を伸ばすよりも先に異なるマイクやスピーカーを試すことも有益です。

これらの方法のいずれかをマイクを選択するために使用することができます。:

- マイクパネル内のマイク・アイコンをクリックして使用可能なマイクを順番に選択します。ヒント: シフト+クリックで逆の順序で選択することができます。
- ドロップダウンメニューを表示するためにマイク・アイコンの右下にある三角形をクリックし、メニューからマイクを選択してください。



マイクセレクト・メニュー

マイクの説明

Dyn-57

オリジナルのビンテージ Shure Brothers Unidyne III SM57 dynamic mic をモデリングしています。ギターアンプをキャプチャーするためのスタンダードと言え、ギターサウンドをミックスから飛び出させるミッドレンジを特徴とします。

Dyn-421

ビンテージの 1962 ホワイト Sennheiser MD 421 ダイナミック・マイクをモデリングしています。MD 421 は、多くのギタリストにとって最有力候補でした。このウォームなサウンドはラウドなサウンドをキャプチャーするエンジニアのお気に入りの 1 つです。トランジェントのよくキャプチャーすることができ、SM57 とくらべてボトムが大きく、柔らかいトップを備えています。

Rib-121

Royer Labs R-121 リボン・マイクをモデリングしています。このモダン・クラシックは、多くのエンジニアのお気に入りのギター・マイクは、低域、低中域が多く、スムーズなトップエンドを持っています。シルキーなサウンドは M160 と似ていますが、よりラウドなサウンドにマッチした多くのヘッドルームを持ちます。ミックスで高域を加えるために SM57 とペアで使用されますが、このマイクは多くの低域も拾うのでランブルを除去するためにハイパスフィルターをオンにすると便利です。

Rib-160

60 年代のビンテージ beyerdynamic M 160 リボン・マイクをモデリングしています。このハンドヘルド・マイクは、大きく、シルキーなトーンをラウドなギターサウンドに加えるためにイングランドのエンジニアに重宝されています。このマイクは、ハイエンドを少なくキャプチャーするのでアンプのトレブルを抑えてレコーディングすることができます。クラシックな 60 年代のトーンを得るには、TONE ノブを最大にオフアクシス位置でこのマイクを使用してください。

Con-67

Allen Sides の所有する Ocean Way Studios のコレクションからビンテージの 1967 Neumann U 67 コンデンサー・マイクをモデリングしています。U67 は、60 年代後期から 70 年代半ばまでの時代、議論の余地の無いキングでした。スイートなミッドレンジ、多すぎないボトム、そしてキレイなトップエンドが得られます。ギター・アンプにとって最高のフルレンジ・マイクといえるでしょう。

マイク・パン

プラグインはステレオ・ソースで使用されている場合、このコントロールは、ステレオフィールド内でのマイクの位置を調整します。

ヒント: 中央位置に戻すには、テキストラベル“C”をクリックしてください。

注: プラグインをモノアウト・セッティングで使用されている場合、このコントロールは中央にロックされます。ステレオ・オペレーションでの例は前述した [ギターアンプ・プラグインのワークフロー](#) を参照してください。

マイク・レベル

マイクのボリュームをコントロールします。MIC1、MIC2 のボリュームを個別に調整することで両方のマイクをブレンドさせることができます。

注: ミュートされている場合、このコントロールは効果がありません。

使用可能な範囲はオフ (−Inf dB) ~ +12 dB までです。“0” の位置に設定するとレベルは 0 dB (ユニティ・ゲイン) です。

ヒント: テキストラベル “0” をクリックすると、0 dB の位置に戻ります。

オフアクシス

最適化された別位置にマイクを配置して、異なった特性を得られます。オフアクシスは、一般的に厚く、強いミッドレンジのレスポンスが得られます。

“OFF AXIS” ボタンを押すとオンになり、デフォルトの位置に戻すには、もう一度ボタンを押してください。オフアクシスになると、このボタンが点灯し、プラグインの画面上のグラフィックでモデリングしたマイクの配置を反映します。

注: ミュートされている場合、このコントロールは効果がありません。

ハイパス

ソース・シグナル上に存在する低周波数域のランブルを低減するハイパスフィルターをオンにします。ハイパスフィルターのカットオフ・フリークエンシーは、82Hz で、オクターブ当たり 18dB のスロープを持っています。

ボタンをクリックしてハイパスフィルターをオンにしてください。フィルターが効いているときは、ボタンが点灯します。オフにするにはボタンをもう一度クリックしてください。

注: ミュートされている場合、このコントロールは効果がありません。

マイク・ミュート

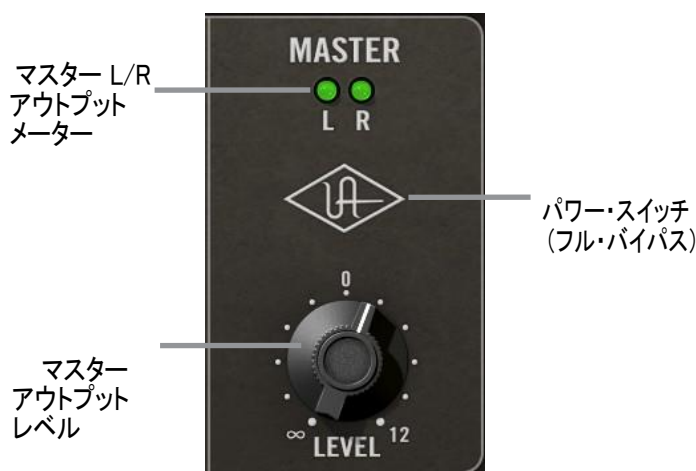
ボタンをクリックするとマイクをミュートします。ミュート時にはボタンが赤く点灯します。ミュートを解除するには、ボタンをもう一度クリックしてください。

マイク・メーター

パン・ノブの上にあるこの LED は、マイク用のシグナルレベル・インジケーターです。LED が緑色の場合、オーディオがマイクに存在しています。LED はレベルが高くなるに連れ、明るく点灯します。



マスター・パネル



マスター・パネル

マスター・レベル

プラグインのアウトプット・レベルをコントロールします。2 系統のマイク・レベルのミックス全体のレベルを調整します。

使用可能な範囲はオフ (−Inf dB) ~ +12 dB までです。“0”の位置に設定するとレベルは 0 dB (ユニティ・ゲイン) です。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると、0 dB の位置に戻ります。

Unison の相互作用

ゲインステージ・モードのコントロール

Apollo がゲインステージ・モードである場合、このパラメーターは、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブでコントロール可能な 3 つ目のゲインステージです。このゲインステージをゲインステージ・モードで選択している場合、右図のようにノブに緑色の点が表示されます。このパラメーターをハードウェアのノブ、またはプラグインのインターフェイス上のノブのどちらでもインタラクティブな調整が可能になります。



ヒント: ゲインステージ・モードに入る/出るために、Apollo のプリアンプのゲイン・ノブを 3 秒間押したままにしてください。ゲインステージ・モードの場合、使用可能なゲインステージを選択するためには、Apollo のゲイン・ノブを何度か押してください。詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルの“Unison”の章を参照してください。

マスター・メーター

デュアル・マスターメーターの LED (L と R) は、プラグインのアウトプット・レベルのインジケータです。オーディオが左右のアウトプット・チャンネルに存在する場合、それに対応する LED が点灯します。

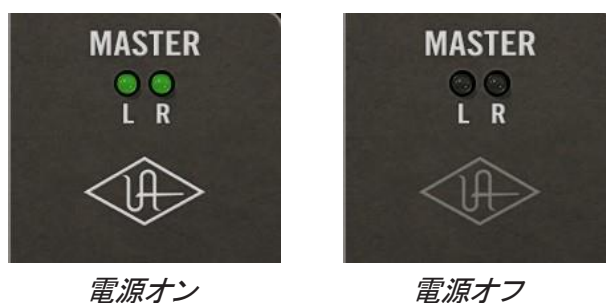
シグナルがクリップすると LED は赤く点灯します。クリップを起こした場合、マイク、またはマスターレベル・コントロール (DAW のマスターアウト含む) を下げてください。デジタル・クリッピングは D/A コンバーターでは発生しません。

重要: プラグインのアウトプットでデジタル・クリッピングを起こさないようにするにはマイク、マスターレベル・コントロール下げてください。

パワー (UA ロゴ)

プラグインの電源を完全にオフにします。電源の状態を切り替えるには、マスターレベル・ノブ上部の UA ダイアモンド・ロゴをクリックしてください。UA のロゴが点灯している時はオンで、グレーになっているときは、オフです。

パワースイッチは、ホストアプリケーションのプラグイン・バイパスと同様の機能を果たします。このスイッチはハード・バイパスとなり、UAD DSP を節約できますが、切り替える際に、ノイズが発生させる場合があります。ノイズの発生しないソフト・バイパスを行う場合、オン/オフ・スイッチを使用してください。



注: DSP 使用率は、UAD Meter & Control Panel アプリケーションで DSP ロードロックがオフになっている場合に有効です。DSP ロードロックがオン (デフォルト) ではこのスイッチで DSP 使用率を減らすことはできません。

グラフィック・パネル

すべてのマイク、配置（ノーマルとオフアクシス共）を正確にグラフィック・パネルに表示します。

注：グラフィック・パネル内のそれぞれは、表示のみを目的としています。このエリア内にコントロールはありません。



グラフィック・パネル

1955 Fender Deluxe のヒストリー

Deluxe は、Leo Fender のこれまでに行っていたラップスチール・インストゥルメントの販売とともに主な事業の一つとして始まりました。初期バージョンの Deluxe (TV フロントと後のナローパネル) は、Esquire/Broadcaster/Telecaster (1950) や Stratocaster (1954) よりも前の 1946 年に現れました。

サーキットは、いくつかの調整とチューブの変更により最終的に歴史的な 1955 年に“ワイドパネル” 5E3 Deluxe にたどり着きました。このバージョンは、バーでのギグ、中規模クラブ、スタジオ・アンプとして重用されました。シングル 12 インチ・スピーカーと 15 ワット程度の出力で、50 年代のほとんどのカントリー、ジャズ・ドラマーとマッチアップするために十分大きなサウンドを出していました。

ロックンロールが流行し、より大きなサウンドとなったドラムやベースに Deluxe はついていくことができず、5E3 サーキットは、ロックギターのザラザラしたオーバードライブサウンドを生み出すようにチューブ・サチュレーション状態に押し込まれていきました。

Leo Fender はさらに大きく、よりクリーンなサウンドの 2x12 の 80 ワット Twin のような Tweed アンプも作られましたが、まだ多くのプレーヤーは、deluxe を諦めませんでした。ディストーションやファズ・ペダルが現れる 10 年ほど前の話でした。オーバードライブしたロックサウンドを必要とする場合、アンプのすべてをアップする必要がありました。

60 年代、70 年代、80 年代には、ディストーションとクラシックな 12 インチのツイードサウンドを好みの音量でライブ・サウンドを得るために多くの新しい方法を発見し、多くのギター・アイコンが常に本物をキャプチャーするためにスタジオで deluxe を使用しました。他の何物ものボロボロで擦り切れたツイードで覆われた deluxe アンプにケーブルで直接接続して得られる大好きなギターのパワフルでダイナミックなトーンに取って代わることはできませんでした。ここ数十年の歴史やジャンルに関係なく Fender '55 Tweed Deluxe はエレキギターの象徴的なサウンドを奏で続けています。

Fender™



オリジナルの *Fender Deluxe* アンプリファイアー

Fender Deluxe のすべての視覚と聴覚のリファレンス、および Fender の商標のすべての使用に関しては、Fender Musical Instruments Corporation から書面に寄る許諾を得て行われています。.



www.uaudio.com